

青少年くらしき

家庭版

発行 倉敷市教育委員会  
編集 生涯学習課  
☎ 426-3845

12月



# ありのままの子育て

## 自立への子育て

～発達障がい(自閉症)の息子と共に歩んで～

「自己決定したことを周りの人が応援してくれたので高校生にもなれ、公務員として働けたのかなと思います。今、彼が公務員として働いている一番大きな理由は自分で自分の進路を決めたこと。鍵は自己決定だったと思います。」

あおぞら共生会の副理事長、明石洋子先生の平成22年度特別支援教育に関する講演会がありました。二回に分けてお届けします。

神奈川県川崎市からやってきた明石洋子でございます。現在三十七歳になる障がいのある長男、明石徹之を育てた、そして今は支援をしている、一人の母親です。専門家でも研究者でもありませんが、一人の子どもを育てながら、子どもからいろんな事を学び、そしてあおぞら共生会という社会福祉法人の運営をしておりまして、福祉から学んだこと等をお話させていただきます。いただいたテーマの「ありのままの子育て」「自立への子育て」と、さらに「お仕事がんばります」と

いう三冊の本も出しています。絶対に障がいを認めたくなかった主人も、今は社会福祉法人の理事長として、最高のジョブコーチ等支援者になっています。私は、母として我が子を心より愛するために、徹之のありのままを認めざるをえません。医学的には自閉症も知的障がいも治らないのだと知ったとき、障がいのままでもいい、とにかく地域の中で自立すればいいと考えました。適切な支援をすれば地域の中で自立できる

カット

のではないかと思いい、そのように育ててきました。子育て及び教育の目標を「働いて地域で暮らす」としたので、働く経験を中二の支援学級のとき電気部品の町工場の実習からスタートして、定時制高校卒業まで「お仕事がんばります。」と言って、七つの職種を経験し、そして現在、川崎市の公務員として十七年働いています。公務員として働いているから知的障がいも自閉症も治ったのかと思われがちですが、自閉症も知的障がいも治っていません。どうして地域で暮らし、そして働けるのかというと、周りが彼の特性を分かり、彼有能力を最大限に発揮できるように工夫してくれているからです。

「どういう子に育てたいか」と考えたとき、「人が好きになる子」と、「自己決定できる子」の二つが大切だと考えました。当時、人が好かれる子に育てるようになっていくことをすごく言われたのです。でも、人から好かれるのではなく人が好きになる子に育てることを大事だなど徹之を育てながら思いました。「人が好き」だと、成長したとき人を信頼し、「人という支援あつての自立」も可能になります。「人から好かれる」ようにと、自分らしく生きること(主体性)を押し殺していい子を演ずると、いつか、特に、思春期に二次障がいを起こしてしまう例をたくさん見てきましたので。あいさつ一つにしても、「人が好き」でコミュニケーションを取りたいと感じるから「あいさつしよう」という心が育つと思うのです。さて、もう一つの、そして一番大事なことは「自己決定できる子」に育てることだと思っております。今、五十年ぶりに改正された福祉法などでは、本人の自己決定を尊重し、自己選択に委ねるといふふうにならなれて、とにかく、自己選択とか自己決定というのが二十一世紀の福祉のキャッチフレーズになっています。平成十二年に社会福祉基礎構造改革が打ち出され、「措置から契約」に大転換し、本人主体になりました。当法人でも保護者や職員の研修をしました。しかし、「自己決定に基づく」と言っても親たちはみんな障がいのある子に自己決定はできないよと言いましたし、職員も、「自己決定に基づく個別支援」と言われても、本人が自己決定できないのに、どのようにして個別支援をす

カット



「はずんで」 小林優花 南浦小学校1年  
楽しかったシュートゲームのことを紙版画で表  
しました。気持ちが伝わるように、手や足、髪  
の毛などを工夫しました。(平成21年度)

るのかと言いました。  
みんな「できない。で  
きない。」と言いました  
が、自己決定できないことは絶対  
にありません。自己決定をさせて  
もらっていないからできないだけ  
なのです。自己決定できるように  
することは簡単です。小さい時か  
ら選ぶことをずっと続けていけば  
成長した時に自己決定できるよう  
になります。  
徹之は子どもの頃すぐにパニック  
を起こしていました。パニック  
を起こすたびに「何をしてほしい  
の。言ってくれないとお母さん分  
からないじゃない。」と、徹之に  
言葉の特訓をしたのです。私は言  
葉で説明するよう求めたのですが、  
彼は特訓をしても言葉では話せま  
せんでした。パニックを起こすだ  
けです。自閉症だからパニックを

ト  
カッ

起こしていると言われていたので  
すが、自閉症だから起こしている  
のではありませんね。私のかかわ  
り方が悪いからではないかと思っ  
たのです。もし言葉で表すなら「お  
母さん違うよ。そうじゃなくって  
……。」と言ったと思います。  
そうじゃないと言葉で言えないか  
ら、結局、体でいやだとパニック  
を起こしているのではないかと気  
がつかしました。だから、パニック  
を押さえつけるのではなく、「パ  
ニックは意志の現れ。思いを育て  
るチャンス」と、子どもの意志を  
分かって欲しいと思いました。そのため  
に彼の前に選択肢を並べ、彼が選  
ぶのを待ち、実行してきました。  
最初カードで始めたのですが、彼  
はカードの意味が分からなくてか  
じったり投げたりしていましたの

で実物からスタートしま  
した。実物で選ぶことを  
繰り返したのです。それ  
で選ぶということがある  
程度分かったので、次は  
写真にしました。実物を  
見せられないことはいっ  
ぱいありますから。「今  
日どこに遊びに行く。」  
と聞いてアルバムから選  
ばせます。たとえば、東

高根森林公園を彼が選んだとしま  
す。山があつて、広い台地があつ  
て、沢があつて、大好きな水遊び  
ができる、彼にとって好きな公園  
なのです。彼が選んで行ってみる  
とその日はフェスティバルがあつ  
て彼のイメージと違っていたりし  
てパニックを起こしそうになりま  
す。徹之が選んだ、あなたが自分  
でこの場所を選んだということ  
くり返し選んだ写真を提示します。  
私が無理やり連れて行つたのでは  
ないことを伝えます。彼は自分で  
選んだことに対してちよつとイ  
メージと違っていても、自分が選  
んだのだと我慢するようになりま  
した。このように、納得するため  
には本人が選ぶことが大事です。  
それを力で我慢させると、力関係  
が変わったときに爆発するので、  
我慢するには納得することが必要  
です。納得する手段としては本人  
が選ぶことです。徹之は小さい時  
からいろんな事を選んで育つてき  
たのです。私は子どもの前にどれ  
だけ選択肢をそろえることができ  
るかが、親の仕事だと思  
っています。

ト  
カッ

- ① 「自己決定」を意味の  
あるものにするためには  
② 「豊富な選択肢」と

失敗しても支えてもらえる「安心  
感(信頼関係)」が不可欠と思  
います。徹之が障がい児と言われた  
とき「不幸な子をもつ不幸な親」  
と絶望しました。しかし、その後  
「ノーマライゼーション」や国連  
の「障害者の人権宣言」(昭和五  
十年)を教えてもらい、本人にとつ  
ては「同情や憐れみはいらない。  
正しく理解し、適切な支援がほし  
い」ということを知って、「不幸  
に見えたのは選択肢がないから。  
地域の中で選択肢を広げよう。」  
と決心し、彼の前に選択肢を広げ  
ました。ところが、「高校に行き  
たい。」「清掃局で働きたい。」「公  
務員試験を受けたい。」「私が並  
べた選択肢以外の進路を決めたの  
です。自分で決めたことには、彼  
は最大の努力をします。彼の一途  
さに、周りの人々は気持ちを動か  
され、協力してくださり、まさに  
「前例のない」道を開くことがで  
きました。本当に「鍵は自  
己決定」です。私が高校や  
公務員を希望したら、「お母  
さん、なんで高望みするの。  
子どもに無理強いさせて」  
と、きつと非難されると思  
いますもの。(つづく)